



「包括連携協定」・「災害時の物資の供給協定」  
相互の人的・物的資源を有効に活用

2月19日、昨年12月のカスミ利根町店出店にあたり、町とのより緊密な連携と協力のもと、相互の人的・物的資源を有効に活用するため、株式会社カスミと「包括連携協定」・「災害時の物資の供給協定」を締結しました。締結にあたり、株式会社カスミ（写真左：山本慎一郎代表取締役社長）からは、「私どもも利根町の町民のひとりとして、地域に貢献させていただきたいと考えています。今後利根町さんとは非常に長いお付き合いになると思うので、今日の締結を契機に良い関係をつくっていききたいと思います。」とごあいさついただきました。



「災害時における施設使用に関する協定」  
害による代替施設として

2月10日に、町と取手警察署との「災害時における施設使用に関する協定」調印式を開催いたしました。この協定は、災害により取手警察署が使用できなくなったときに、その代替施設として利根町役場多目的ホールを、一時的に使用するものです。これにより、災害時においても、警察機能を低下させることなく、対応していただけることとなりますので、町にとっても、安心感が高まるとともに、非常に心強いものとなります。

文間保育園年長園児による啓発キャンペーン  
城県内初の「キッズゾーン」を設定

町では、茨城県内初の「キッズゾーン」を設定し、取手警察署交通課の協力により、去る2月16日文間保育園園児による啓発キャンペーンを実施しました。

当日は、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、4月から小学生となる年長園児に交通安全教室を実施し、横断歩道の渡り方を学んだ後、キッズゾーンの沿道で、園児が手作りしたうちわを掲げながら、通行車両に向けて安全運転への協力を呼びかけました。

町では、保育所などが行う園児の散歩など、園外活動の安全を確保するため、今後、道路の拡幅工事が予定され、交通量の増加が見込まれる文間保育園周辺に昨年12月「キッズゾーン」を設定しています。

「キッズゾーン」を通行される際には、より一層の安全運転をお心がけいただけますようお願いいたします。



「ありがとうの手紙コンテスト2020」  
東ブロック最優秀作品賞受賞

「ありがとうの手紙コンテスト2020」関東ブロック高学年の部で文小学校6年長谷川暉君が最優秀作品賞を受賞しました。

タイトルは、「キッカーズのみんなへ」。自分が所属するサッカーチームのみんなへ宛てた手紙で、同コンテストの審査員長、ジャーナリストの池上彰さんから「自分の心を客観的に分析し、自身に向き合いチャレンジしている姿を6年生らしい表現力で書いている」と評価を受けました。



20歳未満飲酒防止教育 学校コンクール  
小学校3年連続で最優秀賞受賞



「20歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」で最優秀賞を受賞しました。

本年度は、学級活動で「20歳未満飲酒防止講座」を開くなど、地域の医師を招いての活動や保健委員会が中心となり児童主体でクイズ番組形式の活動内容が評価され、小学校部門の最優秀賞に選ばれました。3年連続の最優秀賞の受賞となりました。

県産和牛等学校給食提供緊急対策事業  
校給食に常陸牛が登場！



2月25日、町内全小中学校の学校給食に、茨城県が誇るブランド牛「常陸牛」を使った牛丼が登場しました。

これは、新型コロナウイルスの影響で需要が減少した県内の和牛生産者の支援を目的とする茨城県の「県産和牛等学校給食提供緊急対策事業」を活用した取り組みです。

布川小学校の児童たちは、給食の配膳が終わると、「いただきます！」と待ちに待った牛丼を頬張っていました。「常陸牛の牛丼」を味わい、地元食材のおいしさを堪能し、常陸牛だけでなく、農家の方が心をこめて作った食材ひとつひとつに感謝することを学ぶことができた1日でした。

社会福祉の一環として  
一ヒ豆の収穫が行われました

2月上旬、横須賀のコーヒーハウスとむとむ利根店で温室栽培されているコーヒー豆の収穫作業が行われました。この日は、河内町の「あじさい苑」の利用者12名も社会福祉の一環として参加し、赤や黄色に色づいたコーヒーの実を、とむとむの小池社長指導のもと、一粒一粒丁寧に摘み取りました。参加者は、初めての貴重な体験に寒さも忘れ、夢中で作業を行いました。摘み取られたコーヒー豆は、トネビーンズとして、とむとむ店内で提供されます。

